

施策評価調書

所管部課名

地域振興部経済港湾課

第6次総合計画体系

基本計画頁	政 策	基本施策	施策区分
12	2 観光・交流	01 魅力の創造と発信	01 観光

5年後の目指す姿

●留萌らしい地域資源を生かした体験型観光と、インバウンドの受け入れ態勢整備が推進され、外国人観光客を含めた交流人口が拡大するとともに、人情港町留萌のブランド力が向上されています。

現状と課題

●大人数で画一的な団体旅行から、小規模単位で行動する観光にシフトしてきている中、観光振興による地域活性化への気運の高まりを踏まえながら、既存産業の再生や新たな観光産業の創出による雇用の拡大などを旨とした、より戦略的な観光振興施策の展開が課題となっています。
●北海道にはアジアを中心とした外国人観光客が増加しており、留萌への誘客の検討が必要になってきています。

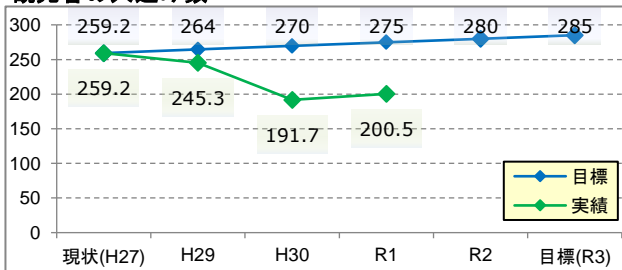
前期[H29~R3]の方向性

●民間との協働により、体験型観光メニューの確立に努めていきます。
●地域資源の活用を推進し、人的資源を有効活用しながら留萌の観光関連産業の進展と創出を図っていきます。
●地域との協働と広域での連携により留萌らしさをPRし、外国人観光客を含め交流人口の拡大に努めていきます。

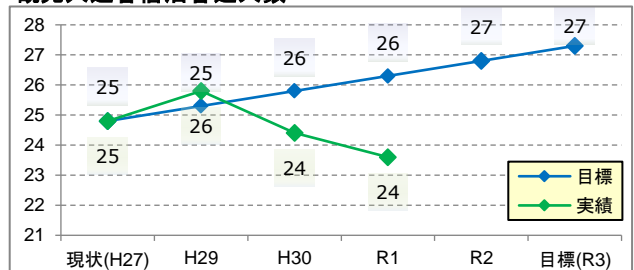
数値目標等 (上段：目標値 下段：実績値)

指標項目	単位	現状 (H27)	H29	H30	R1	R2	R3目標値 目標値補足
観光客の入込み数	千人	259.2	264.4	269.6	274.8	279.9	285.1
			245.3	191.7	200.5		
観光入込客宿泊客延人数	千人	24.8	25.3	25.8	26.3	26.8	27.3
			25.8	24.4	23.6		
訪日外国人宿泊客延人数	人	239.0	244.0	249.0	254.0	259.0	264.0
			408.0	508.0	420.0		

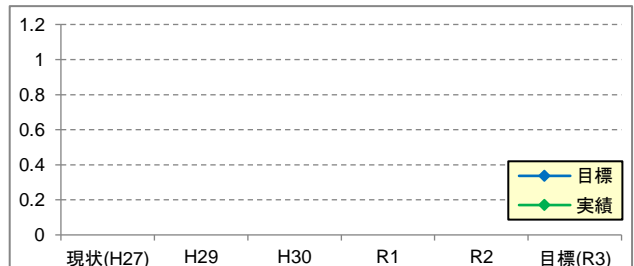
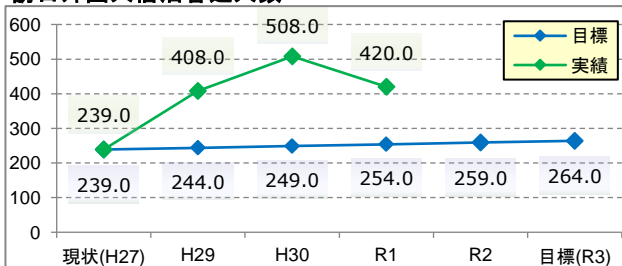
観光客の入込み数



観光入込客宿泊客延人数



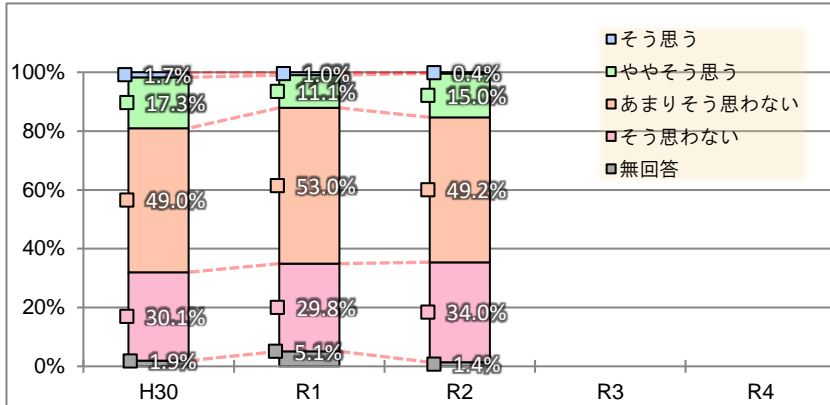
訪日外国人宿泊客延人数



[参考] 市民まちづくりアンケート結果

Q19 地域資源を生かした体験型観光やインバウンド受け入れ態勢の整備により、観光を目的とした交流人口の拡大はもちろん、国内外の都市と人や文化の交流が活発に行われている

市民アンケート回答数		H30	R1	R2	R3	R4
(1)	そう思う	7	4	2		
(2)	ややそう思う	72	43	77		
(3)	あまりそう思わない	204	206	252		
(4)	そう思わない	125	116	174		
	無回答	8	20	7		
	計	416	389	512		



そう思わない、あまりそう思わないを選んだ理由	回答割合
魅力ある観光資源が少ないから	45.8%
観光イベントに魅力がないから	16.9%
観光情報の発信やPRが不足しているから	21.6%
国内外の各都市との交流が活発でないから	8.0%
その他	5.4%
無回答	2.3%

評価	<p>事業進捗評価</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 5年後の目指す姿に向けた前期の方向性についての進捗状況を各項目ごとに評価 <p>【根拠・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光客の旅行形態や嗜好が多様化する中、関係機関や団体と連携した取り組みを実施することにより、時代のニーズに対応した柔軟な事業が組み立てられている。 しかし、観光客が集中する夏季以外の交流人口の拡大や滞在時間・宿泊日数等の拡大を目指した取り組みは、観光客を呼び込む規模には成長しておらず、継続的な取り組みと地域条件・地域資源を活かした留萌市ならではの取り組みが必要である。 ●市の観光施設は、老朽化が進んでおり、修繕を主とした維持管理コストの増加が課題となっており、建て替えも含め継続的な整備計画が必要になっている。
	<p>指標分析</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 各指標項目における実績値、市民アンケートに基づく市民の意識度を勘案し、指標の目標達成を阻む要因を分析 <p>【根拠・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光客の入り込み数については、夏の海水浴客の増減など天候に大きく左右されるものであるが、観光素材のPR、ソフト事業の実施により安定的に推移しているが、今後、これまでも課題となっている閑散期の入込増加に向けた取り組みが無ければ、増加は難しい状況にある。また、H30年度より入込客数調査方法を変更したことから実績値が大幅に減となった。 ●インバウンドについては、順調に増加していたが新型コロナウイルスの影響により今後大幅な減少が見込まれる。
改善	<p>今後の方向性</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 評価及び分析を踏まえ、事業構成の妥当性とその理由、今後の見直しの方向性を検討 <p>【根拠・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光客が期待する留萌市の観光資源は自然景観と新鮮な食材と認識しているが、既存の地域資源を活用はもとより体験メニューの充実など更なる取組みが必要である。 また、コロナ禍があるものの高規格道路の全線開通により、旭川圏域や札幌圏域からの交流人口の増加が図られており、観光事業者等との連携による滞在時間の延長や宿泊客の誘客強化やマイクロツーリズムの拡充を図る。 外国人観光客については、数年は回復しないと見込まれるが、アフターコロナ対策として、道北地域や近隣自治体との連携により、国等の制度を活用した観光資源の磨き上げを図る。

施策評価調書

所管部課名

地域振興部政策調整課

第6次総合計画体系

基本計画頁	政 策	基本施策	施策区分
12	2 観光・交流	01 魅力の創造と発信	02 国際交流

5年後の目指す姿

- 民間の国際交流団体が中心となり、様々な分野での交流が行われています。

現状と課題

- 事業を積極的に展開することで、交流する機会は増えているものの、市民の外国人に対する意識や交流するための受け入れ態勢などが整備されていないため、交流が一部団体に限られ、市民レベルでの意識や理解の高まりが見られていない状況です。

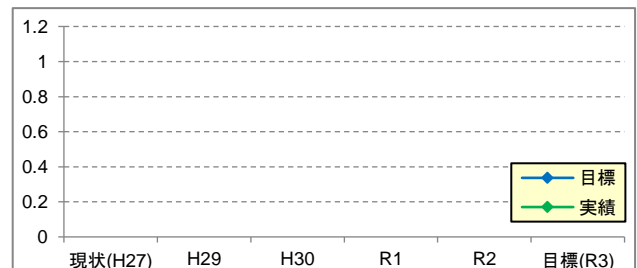
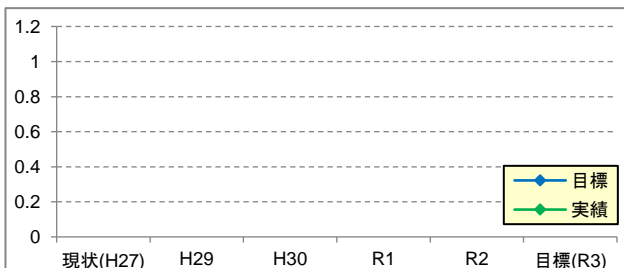
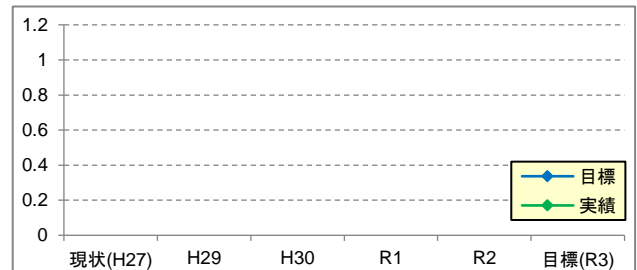
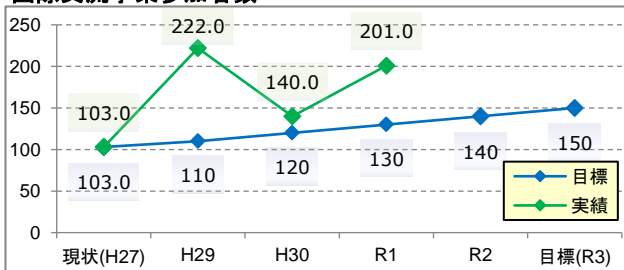
前期[H29~R3]の方向性

- 広く市民が参加し、留前に在住する外国人などと交流できるような事業を支援していきます。
- 国際交流への理解と市民レベルでの国際交流が推進されるような環境づくりに努めていきます。

数値目標等 (上段：目標値 下段：実績値)

指標項目	単位	現状 (H27)	H29	H30	R1	R2	R3目標値 目標値補足
国際交流事業参加者数	人	103.0	110.0	120.0	130.0	140.0	150.0
			222.0	140.0	201.0		

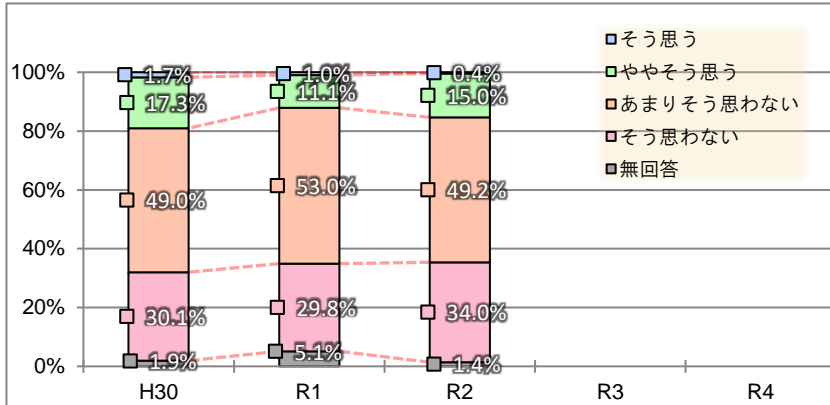
国際交流事業参加者数



[参考] 市民まちづくりアンケート結果

Q19 地域資源を生かした体験型観光やインバウンド受け入れ態勢の整備により、観光を目的とした交流人口の拡大はもちろん、国内外の都市と人や文化の交流が活発に行われている

市民アンケート回答数		H30	R1	R2	R3	R4
(1)	そう思う	7	4	2		
(2)	ややそう思う	72	43	77		
(3)	あまりそう思わない	204	206	252		
(4)	そう思わない	125	116	174		
	無回答	8	20	7		
	計	416	389	512		



そう思わない、あまりそう思わないを選んだ理由	回答割合
魅力ある観光資源が少ないから	45.8%
観光イベントに魅力がないから	16.9%
観光情報の発信やPRが不足しているから	21.6%
国内外の各都市との交流が活発でないから	8.0%
その他	5.4%
無回答	2.3%

評 価	<p>事業進捗評価</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 5年後の目指す姿に向けた前期の方向性についての進捗状況を各項目ごとに評価 <p>【根拠・理由】</p> <p>●国際交流への理解と市民レベルでの国際交流が推進されるような環境づくりのため、留萌市国際交流協会が行う新年交礼会や日本文化交流事業などの市内の外国人技能実習生などの在住外国人と市民の交流を中心に事業が開催されている。しかし事業に参加する市民・団体は限られており、対象を拡大することはできていない。</p>
	<p>指標分析</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 各指標項目における実績値、市民アンケートに基づく市民の意識度を勘案し、指標の目標達成を阻む要因を分析 <p>【根拠・理由】</p> <p>●国際交流協会が実施する市民との交流事業に参加する留萌市在住の外国人は雇用する企業側の理解もあり、増加傾向にある。また、事業の本数や実施内容にも工夫し、市民と楽しめる企画を進めていることもあり、目標値を上回った。</p> <p>●しかしこうした事業に参加する市民は限られているほか、これまでの姉妹都市のウラン・ウデ市や友好港湾の営口港との交流は周年事業などに限られていることなどの理由から、市民アンケートにおいて、多くの市民が国際交流が活発に行われていないと認識している結果に結びついているものと考えられる。</p>
改 善	<p>今後の方向性</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 評価及び分析を踏まえ、事業構成の妥当性とその理由、今後の見直しの方向性を検討 <p>【根拠・理由】</p> <p>●引き続き、北海道国際交流・協力総合センターなどを通じて、他自治体の事例や、取り組みに対する人的・財政的な支援の情報などを収集し、市民や関係団体と連携して市民レベルでの交流促進に向けた意識を高めていくような国際交流の取り組みを通じて、民間主導の体制づくりが図られるよう努める。</p> <p>●また、留萌市国際交流協会の事業の内容について、会員以外の市民も参加がしやすいものを計画するよう努める。</p>

施策評価調書

所管部課名

都市環境部都市整備課

第6次総合計画体系

基本計画頁	政 策	基本施策	施策区分
13	2 観光・交流	01 魅力の創造と発信	03 公園緑地

5年後の目指す姿

- 市民や他都市からたくさんの人々が来訪し、子どもからお年寄りまでが安心して時間を過ごし、笑い声や笑顔があふれています。
- 船場公園「管理棟」から様々な情報が発信され、まちなかへの誘導により賑わいが続いています。

現状と課題

- 平成28年度より指定管理者制度を導入し、民間の視点による新しい発想を取り入れた公園利活用が始まりました。
- 国道231号留萌拡幅事業の栄町交差点が完成し、車と歩行者が安全に通行することが可能になりました。
- 都市計画公園上の規制内において、公園利活用の事業を展開しています。

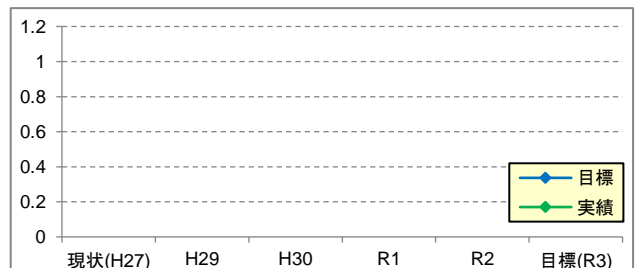
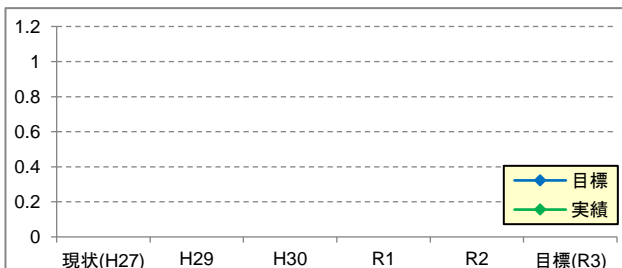
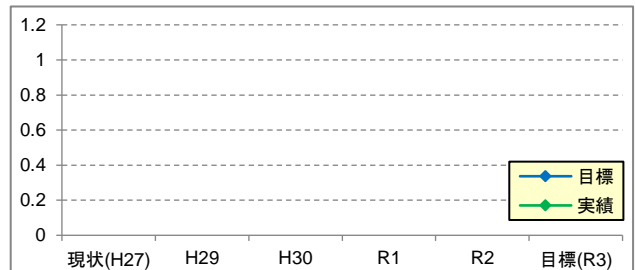
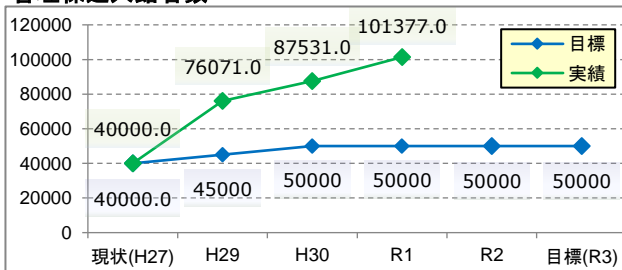
前期[H29~R3]の方向性

- 指定管理者制度により、子どもからお年寄りまで幅広い世代の交流人口を増加させるため、様々な公園利用の可能性を探求し、有効な事業を実施していきます。

数値目標等 (上段：目標値 下段：実績値)

指標項目	単位	現状 (H27)	H29	H30	R1	R2	R3目標値 目標値補足
管理棟延入館者数	人	40000.0	45000.0 76071.0	50000.0 87531.0	50000.0 101377.0	50000.0	50000.0

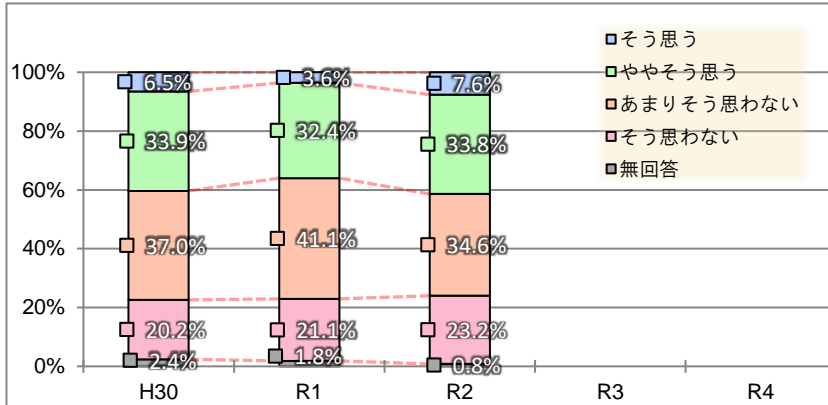
管理棟延入館者数



[参考] 市民まちづくりアンケート結果

Q20 公園の整備・緑化の推進への取組みが十分行われている

市民アンケート回答数		H30	R1	R2	R3	R4
(1)	そう思う	27	14	39		
(2)	ややそう思う	141	126	173		
(3)	あまりそう思わない	154	160	177		
(4)	そう思わない	84	82	119		
	無回答	10	7	4		
	計	416	389	512		



そう思わない、あまりそう思わないを選んだ理由	回答割合
公園の管理が不十分だから	32.8%
公園の遊具等が不十分だから	44.6%
緑地が少ないから	10.1%
その他	10.8%
無回答	1.7%

評価	<p>事業進捗評価</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 5年後の目指す姿に向けた前期の方向性についての進捗状況を各項目ごとに評価 <p>【根拠・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●船場公園は、公園単体としてではなく、広域情報交流拠点と位置付けられており、これまでも観光案内や特産品のアンテナショップ販売を行ってきている。 ●深川留萌自動車道の全線開通及び道の駅へ登録されたことによる交流人口の増加に伴い、新たな賑わいの創出、さらなる魅力の発信に努めていく。
	<p>指標分析</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 各指標項目における実績値、市民アンケートに基づく市民の意識度を勘案し、指標の目標達成を阻む要因を分析 <p>【根拠・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●数値目標である、管理棟入館者数は、全面供用開始の平成28年度より、目標値を上回っており、船場公園については、アンケート調査からも利便性の高い施設として内外から評価を受けている。 ●市内の公園全体の整備、緑化の推進にあたっては、通常の維持管理や遊具などの老朽化において、市民の満足度が上昇しない結果となっている。
改善	<p>今後の方向性</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 評価及び分析を踏まえ、事業構成の妥当性とその理由、今後の見直しの方向性を検討 <p>【根拠・理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●船場公園については、道の駅の登録がされたことから早期の開業を目指す。 ●市内の公園全体としては、公園長寿命化計画に基づく、遊具等の更新を着実に進めるとともに、町内会などのパートナーシップ制度のさらなる強化を図り、維持管理や緑化の満足度上昇に努めていく。

施策評価調書

所管部課名

地域振興部経済港湾課

第6次総合計画体系

基本計画頁	政 策	基本施策	施策区分
13	2 観光・交流	01 魅力の創造と発信	04 留萌港②

5年後の目指す姿

- 北海道を代表する観光地(旭川・富良野・美瑛等)とのアクセス向上により、毎年、客船が寄港するなど、北北海道観光の海の玄関口として確立されています。
- 港の施設を一時的に開放してのイベントなどが行われており、港が身近に感じられるようになっています。

現状と課題

- 客船の入港は、多くの乗船客やクルーによる観光消費、関連産業への経済効果が期待できます。
- 市民を挙げた歓送迎体制の整備など、寄港地としての特色ある魅力づくりが必要です。

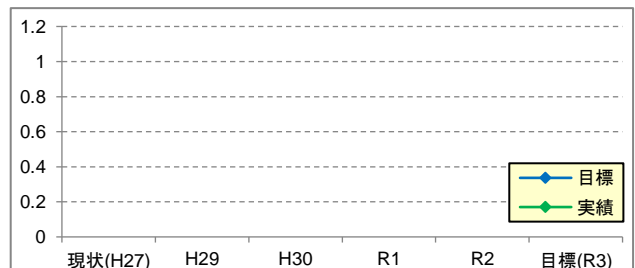
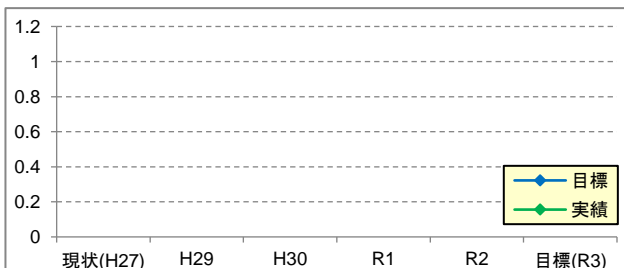
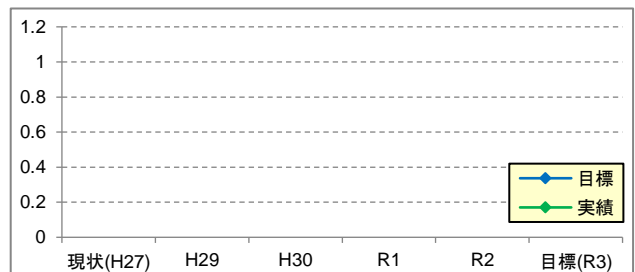
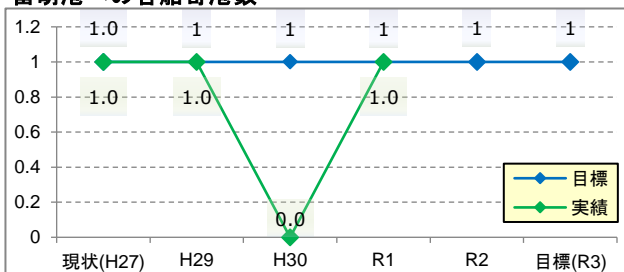
前期[H29~R3]の方向性

- 交流人口増加を図るため、客船寄港誘致を進めていきます。
- 船場公園との連動により、港における賑わい創出を図っていきます。

数値目標等 (上段: 目標値 下段: 実績値)

指標項目	単位	現状(H27)	H29	H30	R1	R2	R3目標値 目標値補足
留萌港への客船寄港数	隻	1.0	1.0 1.0	1.0 0.0	1.0 1.0	1.0	1.0

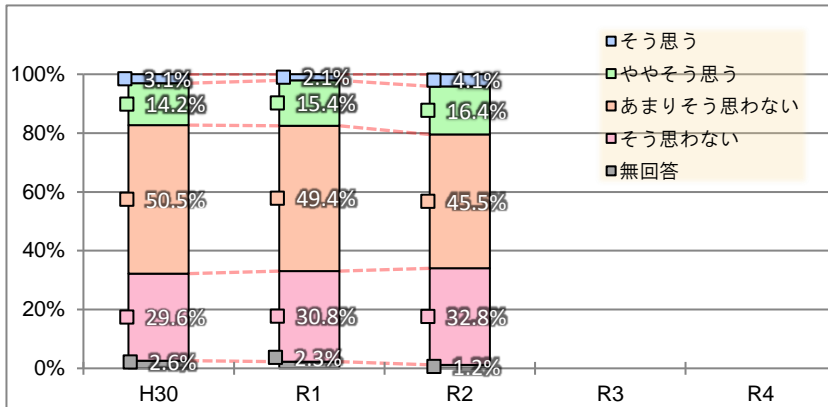
留萌港への客船寄港数



[参考] 市民まちづくりアンケート結果

Q18 留萌港に魅力や親しみを感じる

市民アンケート回答数		H30	R1	R2	R3	R4
(1)	そう思う	13	8	21		
(2)	ややそう思う	59	60	84		
(3)	あまりそう思わない	210	192	233		
(4)	そう思わない	123	120	168		
	無回答	11	9	6		
	計	416	389	512		



そう思わない、あまりそう思わないを選んだ理由	回答割合
港を活かしたまちづくりがすすめられていないから	29.9%
港を中心とした物流、取扱量が減少しているから	19.7%
港に関する具体的な取り組み内容が分からないから	44.4%
その他	4.5%
無回答	1.5%

評価	事業進捗評価 <視点> ・5年後の目指す姿に向けた前期の方向性についての進捗状況を各項目ごとに評価 【根拠・理由】 ●ポートセールスにより、クルーズ船の寄港を誘致や留萌港の利用促進を図った。
	指標分析 <視点> ・各指標項目における実績値、市民アンケートに基づく市民の意識度を勘案し、指標の目標達成を阻む要因を分析 【根拠・理由】 ●行政だけではなく、民間による港を活用したイベントも開催されている。
改善	今後の方向性 <視点> ・評価及び分析を踏まえ、事業構成の妥当性とその理由、今後の見直しの方向性を検討 【根拠・理由】 ●ポートセールスにより、クルーズ船の寄港を誘致することで、留萌港の利用促進を図るとともに、内陸部へのオプションツアーだけではなく、留萌地域を周遊するツアーの提案など、客船寄港による経済効果の拡大を目指す。